

「特別の教科 道徳」学習指導略案

第4学年3組31名

指導者 遠藤 祐輝

1. 主題名 「村の仲間として」 C-11 公正、公平、社会主義
2. 資料名 「山びこ村の二人」（出典：Gakken「みんなの道徳④」）
3. ねらい

差別を許さず、公正、公平な態度で、誰にでも温かく接しようとする意欲を高める。

4. 展開

時間	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ◆評価の視点
導入 5分	1 今までの生活から差別について考える。 ○差別はどうしていけないのでしょうか。 ・嫌な思いをする。 ・悲しい気持ちになる。 ・差別された人がかわいそう。	◇差別に対するイメージを膨らませることで、ねらいとする道徳的価値へと方向付ける。
展開 35分	2 「山びこ村の二人」を読んで感じたことを話し合い、道徳的価値の大切さを考える。 ○五郎、平八が働く様子を見て、村人はそれぞれどんなことを考えていたのでしょうか。 【五郎】 ・よく働くなあ。 ・困った人を助けるなんていい人だ。 【平八】 ・村の役に立っていないなあ。 ・村にとって迷惑だなあ。 ○もし自分が村人の立場だったら平八を宴に誘うか、誘わないかを理由とともに考えてみましょう。 【誘う】 ・仲間外れはかわいそう。 ・みんなで仲良くしたい。 【誘わない】 ・村の役に立っていない。 ・働かない人がいると、宴が楽しくなくなる。 ☆宴を終えた後、どんなところが変わりましたか。また、それはどうしてでしょうか。 ・平八が働き出すようになった。平八に対する村人たちの見方が変わったから。 ・村人たちが笑うようになった。平八の仕事への取り組み方が変わり、村が明るくなったから。	◇五郎、平八に対する村人の印象から二人の違いを考えることで、差別が生まれる状況であることを捉えられるようにする。 ◇「誘う」「誘わない」を心情メーターで表し、ネームプレートを使用して、自分が村人の立場だとの位置になるのかを表現できるようにする。 ◇小グループで話し合いを行うことで、一人ひとりが自分の考えを発言し、問題意識をもてるようにする。 ◇平八の変化だけでなく、村全体の様子の変化も捉えさせることで、差別をしないことのよさに気付けるようにする。 ◆差別を許さなかった五郎の行動からその後の村の様子の変化について考える中で、誰にでも分け隔てなく接することの大切さに気付いている。（発言・ワークシート・観察）
	3 自分の生活を振り返る ○みんなが気持ちよく過ごすためには、どのようなことが大切になると思いますか。 ・相手の心を考えて接すること。 ・自分さえよければよいとは思わないこと。 ・助け合いの心をもつこと。	◇資料を通して深めた道徳的価値観を基にして生活を振り返ることで、これからの自己の生き方につなげられるようにする。 ◆本時の学習を振り返り、公平・公正な態度で接するために大切なことについて自分自身との関わりの中で考えようとしている。（発言・ワークシート・観察）
終末 5分	4 教師の説話を聞く。	◇教師のこれまでの経験等を話し、道徳的価値への理解を深められるようにする。